

©朝日新聞
2010.8.28発行記事から転載
「南の終着駅枕崎。その響は、全国の鉄道ファンを魅了してやまない」…掲載記事より

枕崎駅を想う会



この駅は枕崎の「宝」
もっと注目してほしい

駅をまちの財産としてまちづくりにつなげていこうと活動をしている団体があります。平成20年3月に発足した枕崎駅を想う会(積山ユミ子会長)は、JR列車を利用して枕崎を訪れた人々を気持ちよく歓迎してあげたいと、駅構内及び周辺の花壇整備等に取り組んでいます。同会の会長である積山さんは、「枕崎駅は枕崎の宝、もっと注目してほしい。利用客が少ないと廃線ということも考えられるので、みんなが利用して盛り上げていけたら」と話していました。



九州新幹線全線開業間近

相乗効果で
誘客に弾みを

水産商工課 商工観光係
原田博明 係長

九州新幹線全線開業に合わせて、本市でも様々なイベントが計画されています。市観光協会を中心に市内飲食店・旅館業・観光施設などが協力し実施するイベントが「枕崎ぶえん鯉スタンプラリー」です。期間は3月1日から5月31日までの3か月。この機会に枕崎ぶえん鯉を使った料理をぜひ堪能してください。また、期間中の3月20日には枕崎商工会議所主催の「まくらざき春の市」も計画されています。そのほか、食によるまちおこしを掲げる「はまらん会」では「日本最南端・終着駅弁当」の売り出しにも力を入れています。こうした市内の各団体が一体となって行う取り組みが相乗効果を生み、より多くの誘客に結びつくことを期待しています。

九州新幹線全線開業を前に
注目を浴びる「枕崎駅」



◎スポーツニッポン
2010.11.30発行記事から転載
「日本最南端終着駅を持つ枕崎。オンリーワンがいぶし銀で発光する。」…掲載記事より

今後は南の始発駅のイメージを強く発信していく試みも大切かもしれません。そう考えると、始発証明書や始発駅弁当といったアイデアなど浮かんできます。始発駅にちなんだ特産品の売り出し、駅をテーマにしたイベントの企画など、どんなアイデアは膨らんでいきます。おもてなしの心

もう一つ、枕崎の観光を考える上で大切なことはおもてなしの心です。仮に枕崎の地域全体を舞台と設定すると、本市を訪れた方々は舞台を見に来てくれたお客。枕崎の自然の味、文化の味、観光施設の味、食の味などが舞台上の出演者となります。そのとき、私たち市民一人ひとりが、出演者の味をより際立たせる演出効果の役割を果たします。つまり、それがおもてなし(枕崎人の味)であり、本市が観光客に提供できる最高の味がそこにあります。



▲平成21年12月にオープンした枕崎観光の拠点「枕崎駅前観光案内所」
▲花植えをする「枕崎駅を想う会」の会員
▲趣のある枕木の道

オンリーワンの終着駅 「枕崎駅」を活かす

この枕崎には、日本でたったひとつしかないオンリーワンの魅力的なもの(観光資源)があることを認識しています。それは「日本最南端終着駅・枕崎駅」です。住んでいる私たちは当たり前のように感じているかも知れませんが、「日本最北端・稚内駅」から南北3000km以上続く鉄道の終点となる「南の終着駅」という旅愁感漂う言葉の響きは、全国の鉄道ファン、旅行ファンの旅心を魅了してやみません。

一方、見方を変えるると終着駅は始発駅にもなります。まちの活性化の視点に立てば、枕崎発の元気な風を南から興じていこうという発想から、終着駅は始発駅

オンリーワンの枕崎駅
100年に一度のチャンスといわれる九州新幹線全線開業(平成23年3月12日)がいよいよ間近に迫ってきました。鹿児島から大阪まで最短3時間45分で結ばれることにより、九州はもちろん、関西圏まで含めた商圏の拡大や、観光をはじめとした交流人口の増加など様々な波及効果が期待されています。県内各地ではこのチャンスを地域活性化につなげようと、さまざまなイベントが計画されています。

今月号では、新幹線開業に向けた市や市民の取り組みを紹介するとともに、この機会に枕崎駅の活用方法について考えてみます。



▲駅の隣には「枕崎駅を想う会」により整備された枕木の道と花壇がある
▲プラットホームの反対側にあった撮影ポイント
▲「時刻表」を見ると1日6便の運行
▲「日本縦断鉄道の旅」のツアー客が30名ほど降りてきた
▲プラットホームに降り立つと「まくらざき」の看板